

分苑たより

なごみ

大本
名古屋分苑

分苑長

秋季大祭 挨拶

サルートン こんにちは

只今は爽やかな秋空のもと名古屋分苑秋季大祭ならび祖霊合同慰霊祭を皆様と共に執り行わせていただきました。

誠にありがとうございます。

此度は本来十六日に予定していましたが、三河本苑完成報告祭と重なり、教主様ご臨席の祭典に東海教区主会長全員と本部審査委員をされておられる妹尾正治様が招待されたため、本日に変更させていただきました。

八年前の名古屋分苑での完成報告祭を思い浮かばせて頂きました。

九月二十四・二十五日と開催いたしました祭式講習会と葬祭研修会につきましては、のべ二十六人の参加者がありました。

今回は、祭式を初めて受講

される方が六名お見えになられ真剣な面持ちで実技に取り組まれていました。

葬祭研修会では、一連の招

魂式・発葬式・家祭・五十日合祀祭、また一日で葬儀を行う式次第など研修されました。

十一月に入れば月始祭と同じ五日に本部ではここにこの大家族、六日は開祖大祭が行われます。

今年が開教百三十年の節目に当たり、みろく大祭同様に本宮山参拝が許されています。名古屋分苑誠心会の行事として開祖大祭一週間前の十月二十九日と三十日に金龍海周辺の大八洲神社・杵島冠島神社・大本塩釜神社とその周辺整備等の献労をさせて頂きま

す。

今回の開祖大祭では、お玉串の記念品として本宮山のヒノキの間伐材で作られたお箸のご下付があります。玉串参

拝をされる方は本日、私がお預かりいたします。

十一月の私の予定としては、月始祭の五日は本部より依頼をうけました「ここにこの家族の集い」のお手伝いにご奉仕させて頂きます。

月次祭の二十日は本部より全国主会長・人類愛善会協議会長会議の出席要請がありましたので出席させて頂きました。よって分苑の両祭典は欠席します。ので宜しくお願い致します。

十二月に入れば月始祭後に総代会を開催し令和四年度の(仮)収支決算を審査して頂きます。

十二月十八日は月次祭後に機関長会議を開催いたします。皆様には、令和五年度の行事予定表を全国機関長会議に発表される本部の行事と東海教区を交えた行事予定表を作成して配布いたします。

本日のご参拝ありがとうございます。

コーランダンコン

行事報告

●月始祭

十月一日(土)

参拝者 十二名

斎主 青山 将士

祭員 小林 清人

進行 天野 静子

●直心会聖地献労(緑寿館)

十月一日(土) 令和元年のご奉仕以来、今回久しぶりの緑寿館献労に行かせて頂くことができました。

この度より、綾部での宿泊が可能となり、八時半に緑寿館に集合、館のご神前にご挨拶させて頂きました。とても清々しく嬉しい気持ちで満たされました。

その後、庭の苔の中の草引きをさせて頂き聖地の空気をたくさん頂くことができました。この度は近江本苑の方々と一緒に、貴重な時間を楽しく過ごさせて頂きました。

参加者 見田すみ子 五十川 松子 堀和子

直心会長 堀和子 報告

●草引き献労作業 津島支部

十月九日(日) 支部月

次祭終了後、津島支部に移動して十二時半より十四時まで小雨の降る中、皆で懸命に作業を行った。

ご守護を頂き本降りになると同時に

に予定の範囲を無事に完了すること。ができた。

植樹した松は一メートルほどに育っており、今後皆様のご奉仕をお願いします。参加者 六名

瓜生秀明 報告



●秋季大祭

秋季祖霊合同慰霊祭

十月二十三日(日)に菱川義英執行委員長、畠山茂副執行委員長、大神様齋主・高嶋善雄分苑長、慰霊祭齋主・久野武男のもと、厳粛に執行され、祭典後には八雲琴「庭津鳥」が奉納された。

引き続き、堀宜雄特任による講話「信仰叢話、追膳供養の大切さ」を受講した。

参加者六十六名

(大祭関係者含む)



☆前日は十時から直心会・準備委員により分苑の清掃・祭典準備が行われた。



新米の販売について

今年も例年通り、川地善則様より、愛善酵素農法、減農薬で栽培された新米を販売していただけます。

白米 5k 2, 1000円

玄米 5k 2, 000円

ご希望の方は十一月末日までにお申し込み下さい。

担当 総務 瓜生

行事予定

十一月二十日(日)

月次祭 午前十時半より

十二月三日(土)

月始祭 午後一時半より

総代会

言葉の力 その⑦

特任宣伝使 妹尾正治

令和三年十二月十七日の中日新聞に載っていた見出しです。

『キュウリ 夏だけの味に?』

この言葉で皆さんは何を思いつきますか? 「キュウリは体を冷やす効果が有るから夏に食べた方が良い」

「時期物はその時期に食べるのが体に良い」どちらも正解です。

しかし本文では環境問題を真剣に見直す時に来ていると、大手スーパー「バローホールディング」の会長兼社長の田代正美氏が語っています。『昔はキュウリは夏しか食べ

られないというのが(中略)今、環境問題ですね、オイルをガンガンたいてですね、キュウリを食べなきゃいかんっていうのがまた見直される。これは私たち消費者にむけた苦言だと思いました。

又、企業側に立っては、『当日仕入れた「旬」の商品をその日に売り切るような、昔ながらの「八百屋」「魚屋」のビジネスモデルに回帰するところが脱炭素につながる』と独自の視点で語って見えました。食品ロスも社会問題になっていきます、私たちは出来るだけ旬の食材を使った食事に心がけ、食材に感謝して使い切ることが健康にもつながり、神様のお道にも叶う行動だと思います。月次祭などの神饌物を見て、年中店頭に並んでいるキュウリ・ナス・バナナなどは、神様は喜んでみえるのだろうか?と感ずることがあります。キュウリ一本からのエコ生活を皆さんと考えてみたいと思います。